資料２－１

「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」の世界遺産推薦について

１．名　称

ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－
（ L’œuvre architecturale de Le Corbusier
–Une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne- ）

（旧名称　ル・コルビュジエの建築と都市計画 L’œuvre architecturale et urbaine de Le Corbusier ）

２．概　要

ル・コルビュジエ（Le Corbusier, 1887～1965）は、パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家。建築・都市計画のみならず絵画、彫刻、家具などの制作にも取り組み、小住宅から国連ビルの原案まで幅広い創作活動を展開した。合理的、機能的で明晰なデザイン原理を絵画、建築、都市等において追求し、20 世紀の建築、都市計画に大きな影響を与えた。本推薦は、世界各地に所在する彼の建築・都市計画作品のうち、６カ国に所在する 19 の資産について、一括して世界遺産に登録しようとするものである。

３．遺産の種別

文化遺産　記念工作物、建造物群

４．構成資産

別紙参照

５．価値

以下に示すとおり、本資産は世界遺産の登録基準のｉ）、ii）、vi）の観点から評価が可能である。

ｉ）ル・コルビュジエの建築作品は、人間の創造的才能を示す傑作である。

ル・コルビュジエの作品群は、20 世紀の新たな問題を探り、これに対する前例の無い答えを見出したものである。彼の比類無き創意は住宅から都市計画まで幅広く見られ、形態、空間、色彩のみならず、技法やそこでどのように生活するかといった面にも現れている。彼の作品群は、独創的な創造物であるに留まらず、世界中の建築作品が採用する解決策を先取りしたものである。

ii）ル・コルビュジエの建築作品は、近代建築の発展に重大な影響を与えたある期間を物語るものである。

ル・コルビュジエの作品群は、「近代建築運動」と呼ばれる 20 世紀における建築の主流をなす手法の、誕生と発展を物語るものである。この運動の下、世界中の都市景観がその形態、材料、技術の各側面において大きく変容した。ル・コルビュジエは、２０世紀初頭から 1960 年代半ばまでこの運動にきわめて重要な貢献をしただけでなく、その死後も著書等を通じて影響を与え続けている。

vi）ル・コルビュジエの建築作品は、顕著な普遍的価値を有する思想、芸術的作品と関連がある。

ル・コルビュジエの作品群は、20 世紀を特徴づけ、本質的な普遍性を有する近代主義に直接的な関連性がある。インターナショナルスタイルと機能主義を含むこの思想は、20 世紀の建築に大きな影響を与え、その居住環境や建築についての人々の思考様式を一変させ、今日でも全ての建築家が共有する文化的な土台をなしている。

６．経緯

平成１９年　９月　フランス文化・コミュニケーション省から共同推薦の依頼

同月　「国立西洋美術館（本館）」を暫定一覧表に記載

２０年　２月　６カ国（フランス・ドイツ・スイス・ベルギー・日本・アルゼンチン）により世界遺産に推薦

１０月　イコモスによる現地調査

２１年　５月　イコモス勧告（「登録延期」の勧告）

６月　第３３回世界遺産委員会（セビリア）における審査（「情報照会」の決議）

２３年　１月　ユネスコ世界遺産センターへ情報照会対応文書の提出（予定）

５月　イコモス勧告（予定）

６月　第３５回世界遺産委員会（バーレーン）における審査（予定）

国立西洋美術館について

１．概要

国立西洋美術館本館は、日本に所在する唯一のル・コルビュジエ設計による建築である。

実業家・松方幸次郎の美術品コレクション（絵画、彫刻等）のうち、パリに保管され、第二次世界大戦後にフランス政府に押収されたものについては、1953 年、その大半が日本国政府へ寄贈されることとなった。寄贈に当たっては、西洋美術の変遷が学術的に日本の人々に伝わるような新美術館の建設が条件とされ、国立西洋美術館本館は、この条件を満たすために日本国政府が上野恩賜公園内に建設したものである。

設計者にはル・コルビュジエが選ばれ、建設にあたっては、ル・コルビュジエの下で学んだ前川國男、坂倉準三、吉阪隆正が設計補助ならびに現場監理を行っている。着工は 1958 年 3 月、竣工は 1959 年 3 月である。

国立西洋美術館は、陸屋根、正方形の平面形状、らせん状の回廊、展示品の増加に伴い渦が大きくなるように増床できる平面計画等、ル・コルビュジエによる「限りなく成長する美術館（Musee a croissance illimitee)」の構想をよく現した作品として評価されている。ピロティー、屋上庭園、斜路、自然光を利用した照明計画等、ル・コルビュジエに特徴的な設計要素を随所に見せる点でも貴重であり、20 世紀を代表する世界的建築家のル・コルビュジエの代表作品として、顕著な普遍的価値を有している。

２．遺産の種別

文化遺産のうち、記念工作物

３．所在地

東京都台東区上野公園７－７

（正面）

（展示室）

「ル・コルビジェの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献－」構成資産一覧

ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅群（ドイツ）

クルチェット邸（アルゼンチン）

ギエット邸（ベルギー）

ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸（フランス）

ペサックの集合住宅（フランス）

クック邸（フランス）【注1】

サヴォア邸（フランス）

救世軍難民院（フランス）【注1】

スイス学生会館（フランス）

ナンジュセール・エ・コリ通りのアパート（フランス）

ユニテ・ダビタシオン（フランス）

サン・ディエ工場（フランス）

ロンシャンの礼拝堂（フランス）

カップ・マルタンの小屋（フランス）

ジャウル邸（フランス）

ラ・トゥーレットの修道院（フランス）

フィルミニの建築物群（フランス）

チャンディガール（インド）【注2】

国立西洋美術館（日本）

レマン湖畔の小さな家（スイス）

ジャンヌレ邸（スイス）

シュウォブ邸（スイス）【注1】

イムーブル・クラルテ（スイス）

【注1】救世軍難民院（フランス）、シュウォブ邸（スイス）、クック邸（仏）の3件は構成資産から削除。
【注2】チャンディガール（インド）は、前回推薦書提出の直前に辞退。

「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献」
構成資産一覧

所 在 国	建　築　物　の　名　称	建設決定年
ドイツ（1）	ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅	１９２７
アルゼンチン（1）	クルチェット邸	１９４９
ベルギー（1）	ギエット邸	１９２６
フランス（１２）	ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸	１９２３
	ペサックの集合住宅	１９２４
	サヴォア邸	１９２８
	スイス学生会館	１９３０
	ナンジュセール・エ・コリ通りのアパート	１９３１
	ユニテ・ダビタシオン	１９４５
	サン・ディエ工場	１９４６
	ロンシャンの礼拝堂	１９５０
	カップ・マルタンの小屋	１９５１
	ジャウル邸	１９５１
	ラ・トゥーレットの修道院	１９５３
	フィルミニの建築物群	１９５３～１９６５
日　本（1）	国立西洋美術館	１９５５
スイス（3）	ジャンヌレ邸	１９１２
	レマン湖畔の小さな家	１９２３
	イムーブル・クラルテ	１９３０

（６カ国・１９資産）